



四天王剽盜異錄

前編

二

13
974
2



門 非 八 八  
974  
2

源家 四天王剽盜異録卷之二

東都

飯台 曲亭 主人 著  
門人 魁蕃 癡叟 校

第三綴

岐岨 棧小正通 妖婆を拉ぐ談

附 弓矢村橋 平孝子 荒太郎 変

沼田正通の寢覚の里と立出づ。節折母を杖掖は只官路か  
いづ。程よ己み棧の西岸より来ぬ。あかふ四方は眺む六奇は破碌として  
両岨屏風のごとく。中小條の棧あり。藤蔓をとり。板に繫死鐵鍾なりそ  
行とる。遠くこれと眺め。練素と引ぬふひとく。近くこれと視む。ハ  
蟒蛇の蟠ふ似たり。時春あが草かゝる。雪は去年はあつて路いと  
滑く夕陽西み傾き。ゆく先る。海遙なるへそ。頻りにこれと渡り

川巻異録

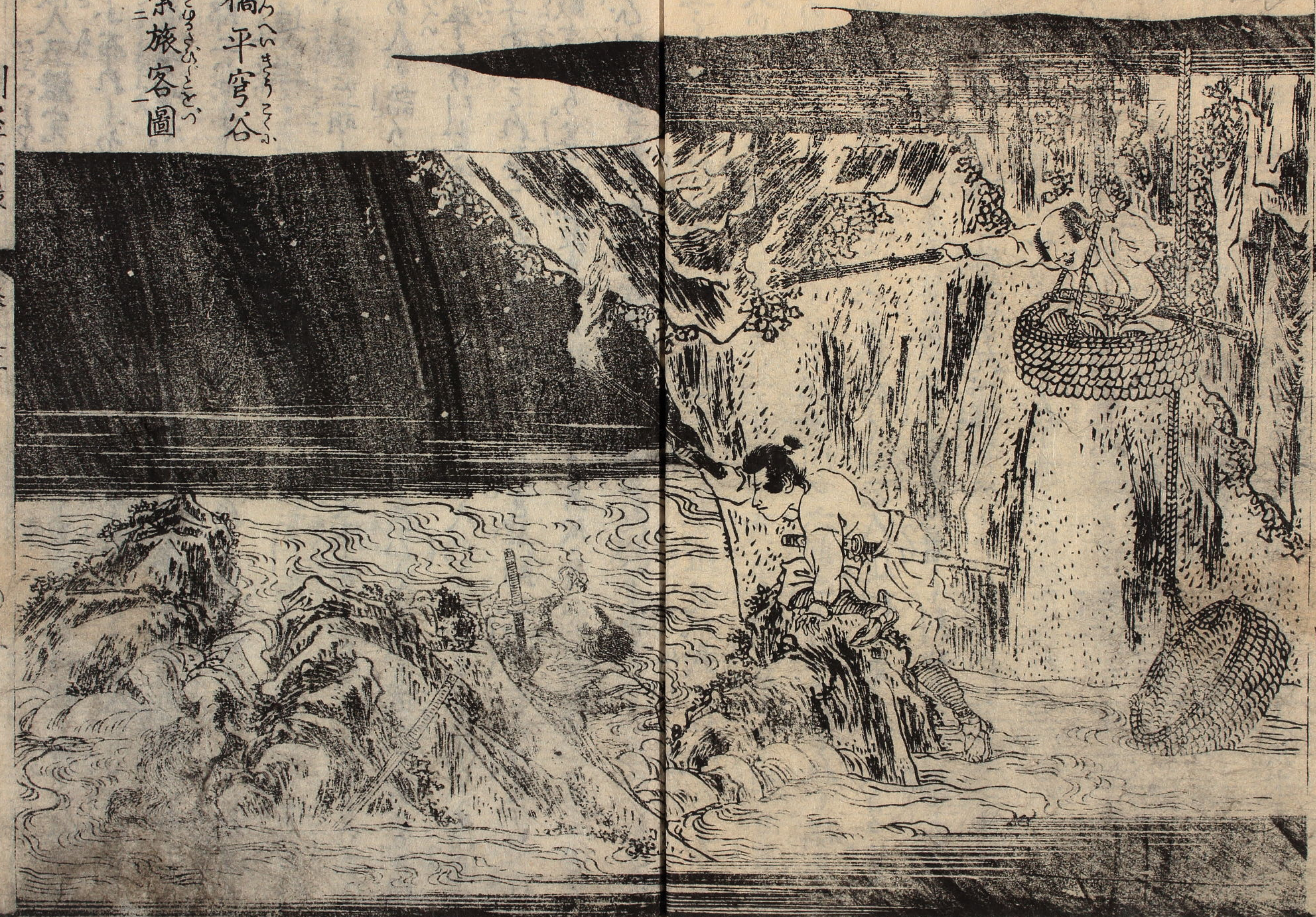
ちうんととるよ。節折へるふさ、眩轉さく、足の踏とこりともあつべ。おの  
 いかにせんとくさふ正通とく一筋一杖さきさきととる折しも。  
 貝鉦の音耳辺に起り。人声は響きていと叫囂ら。正通彼首と倍と  
 えれば、その瘦朽する一個の姥眼、百煉の鏡と拭髪、方根の芒狐、乱して  
 そのさゆ妖怪鬼畜のけが奮然と走り来り。節折小摺のりりん  
 と正通のるゝ懸隔て刀抜、抜入違カをれば引組く上より下なり  
 く揉合、岳石峻険と路狭く。進退自在なれ、互に岨  
 踏ぐ。数千丈の谷底、真逆さふ小隔りなり。節折ハ姥狐一目  
 えし、六神も身小を腕臑丸を志と抱、岨の木をよけり。今正通  
 今正通が千仞の谷小墮とれ、この何とある身の果ぞと思ふ、いと胸  
 ふさぐ。そのさき其処小寺あり、この時居多の里人あり、姥狐

逐ひ来り。この光景、妖しく力に戮せんとも、小岨高く谷深、いふ  
 ちもせんまふあつれ。さきさき集りて、この度、狐議する、一人が  
 といく。彼旅人、姥とていふ、小隔りなれ。今、肉破き骨折、さき  
 くれ、狐救んもいふ、あつれ。幸ひ道づれと、覚れた女子の、彼処小伏居  
 と、その郷貫、狐も尋ぬる、さきといふ。衆皆理ありと、うけ引く。  
 節折は、ほら小歩こり。さきさき、伴なうさき。さきさき、さきさき、  
 覚れた、その何國の人、何處へ赴たる、その言、いと訛り。故  
 田舎人の信、言ふ、うらまえて、さき、節折、さき、頭と奉。さき、故  
 わりて、上野國へ赴り、そのゆゑ、里も、保の男、ありて、侍と、さき、  
 赤ても侍と、さき、彼人、傷つた病むとありとも。死あ、さき、さき、  
 僕、侍、さき、いと侍と、さき、只、けうの、庇ふ、れと、救ひ、さき、  
 僕、侍、さき、いと侍と、さき、只、けうの、庇ふ、れと、救ひ、さき、



陷谷正通  
のち、あまを  
除妖波女圖





橋平穹谷  
きんへいきゆうこく  
 索旅客圖  
かりゆきりやくと

彼人五體完たところもたなく。朱小なりと死するが。あは姥を放さば。姥へ  
 下小布れしや。小孫さうも。脳砕腹裂て死居ら。あ人この光景と見え  
 只管嗟嘆し。橋平まが暗号の索瓜引上より又二の簀瓜おろり。  
 六郎二のやう二の死骸瓜引上りんとせられども更ふ離まば。どうくもる程ぬ  
 正通が襟よりけりる。敗布と探り當つ。これと引上りる。百金の重しめれば。  
 俄に慈心萌と。橋平小私語る。この夏法まことなめとてらるめのみ。  
 ぬめ人小語りのま共よ。これ瓜とらるべと。いひくく懐おあめり。されど  
 橋平うけしむ。お義の敗へ禍の媒かり。この人已小死し。ちと。いふ。あは連の  
 女子のり。これ瓜とらる。人事道小の。いと。諫ま。六郎二呵と。うら。い。夫公。是。一時  
 の戯言かり。善も悪れも。世小の。扱ひのめ。め。瓜。の。金。と。何。う。せん。と。い。ひ。つ。  
 再び引上り。あ。さん。と。ま。る。ふ。死。骸。い。く。離。ま。ば。い。ふ。せ。ま。ば。と。思。ひ。と。め。と。瓜

橋平が。い。く。か。る。処。小。長。く。居。る。陰。湿。の。氣。お。犯。され。く。あ。あ。い。  
 病。瓜。引。上。り。何。う。も。と。夏。の。ん。切。と。め。ら。る。と。い。ひ。六。郎。二。げ。お。り。と。ん  
 した。短。刀。引。ぬ。き。く。これ。瓜。切。も。ま。ち。正。通。が。死。骸。を。打。く。簀。の。裡。納。ま。二。入  
 抄。の。一。元。の。簀。小。中。し。く。索。瓜。引。上。る。人。の。暗。號。と。ま。と。三。條。の。索  
 を。手。繰。り。十。尋。あ。ま。り。も。引。上。り。と。思。ふ。時。六。郎。二。忽。ち。腰。の。刀。ぬ  
 手。瓜。切。り。と。い。え。る。が。橋。平。が。乗。る。簀。の。索。瓜。と。り。と。切。り。お。り。返。さ  
 刀。小。正。通。を。装。る。簀。瓜。切。り。へ。橋。平。の。正。通。が。死。骸。を。お。ろ。し。び。礎。と。撞。出  
 小。碎。る。音。と。れ。六。郎。二。む。と。う。小。い。ふ。と。い。ひ。と。中。刀。瓜。お。ろ。り。の。り。  
 二。條。ま。と。索。の。切。き。つ。ふ。う。ち。殺。馬。の。危。く。残。る。一。ま。ぢ。と。忙。し。い。の。り。  
 六。郎。二。忙。然。と。る。け。り。あ。り。く。い。ん。と。胸。瓜。撫。お。り。姥。旅。人。も。已。に。死。い。る  
 る。と。物。ご。う。新。ま。で。為。課。せ。し。る。り。の。と。中。途。ま。至。り。く。索。瓜。ま。と。い。ひ。と。い。ひ。





とむがらん  
妖婆冤魂  
憑九圖



貞縁まこと一ひとりの見成長こひくさる及およびます。愛慾あいよく貪婪せんらんのころ起おこり。終つひは剛盜ごうとう。こころに殘惡えあくを技わざし。身みは自刃じりんの下したに亡なせる。むとあひらき。詰分しむけ両頭りやうとう。こゝろ

橋平はしひらが子こ荒太郎あらいちやう。今茲いまつぐふ十一歳じゅういちさい。その骨柄こつがら逞たくましく

身みの丈だけ尋常よつねの十四五歳しよごさいのころ。ちと飽あまぐ。たてて

その稟性うまれ武藝ぶげいが好あい。野の遊あそぶ。日ひの牧まきのころ。駒こま小繩こつづな。手細懸てしゆけ。馬術ばじゆ

をころり。山やまふある日ひ。木き松まつ伐きり。刀かたな。石いしを撃うち。鉄てつ。こゝろあつ。のこ

ろ。孝かう心しん。やうく。露つゆ。ちと。父母ふぼ。こゝろ。こゝろ。父ちち権平ごんぺい。これ。お

ら。ある。荒太郎あらいちやう。日里人ひりじん。か。あ。せ。め。く。父ちちが。棧せきの下した。小隔こまり。ちと。あ。せ。

中なく。駭おどかして。驚おどかす。短刀たんたう。松まつ。又また。跨またつ。母はは。ちと。その。怒こ。走り

ゆれ。己おのれ。小唄こなうた。ちと。花はな。しん。と。ま。る。を。母はは。こ。見みの。袂たもと。お。纏まとり。こ。物もの。は。ね。ふ。り

荒太郎あらいちやう。度たび。ぬ。あ。ぬ。漢川かんせん。小翅こて。あ。く。く。到いた。れ。た。怪あや我われ。く。斃あれ。を

ちと。せ。と。涙なみだ。ちと。小田こゝ。ま。荒太郎あらいちやう。も。涙なみだ。を。拭ぬ。母ははの。命いのち。さ。る。こ。か。が。ら

ちと。く。父ちちの。隔まり。あ。か。子こ。く。く。これ。を。救すく。鳥獸とりけもの。も。か。さ。下した。の

ちと。及および。く。父ちち。ちと。り。く。く。死し。あ。ぬ。れ。本望ほんぼう。ちと。この。夏なつ。ちと。り

荒太郎あらいちやう。母はは。が。つ。く。あ。あ。走はり。下した。ん。と。ま。る。を。母はは。忙いそぐ。抱かかり。と。思おもひ

ぬ。簀すい。お。装ま。索さく。を。着き。これ。は。人ひと。ふ。り。せ。く。その。索さく。切き。れ。身み。は。喪う。あ

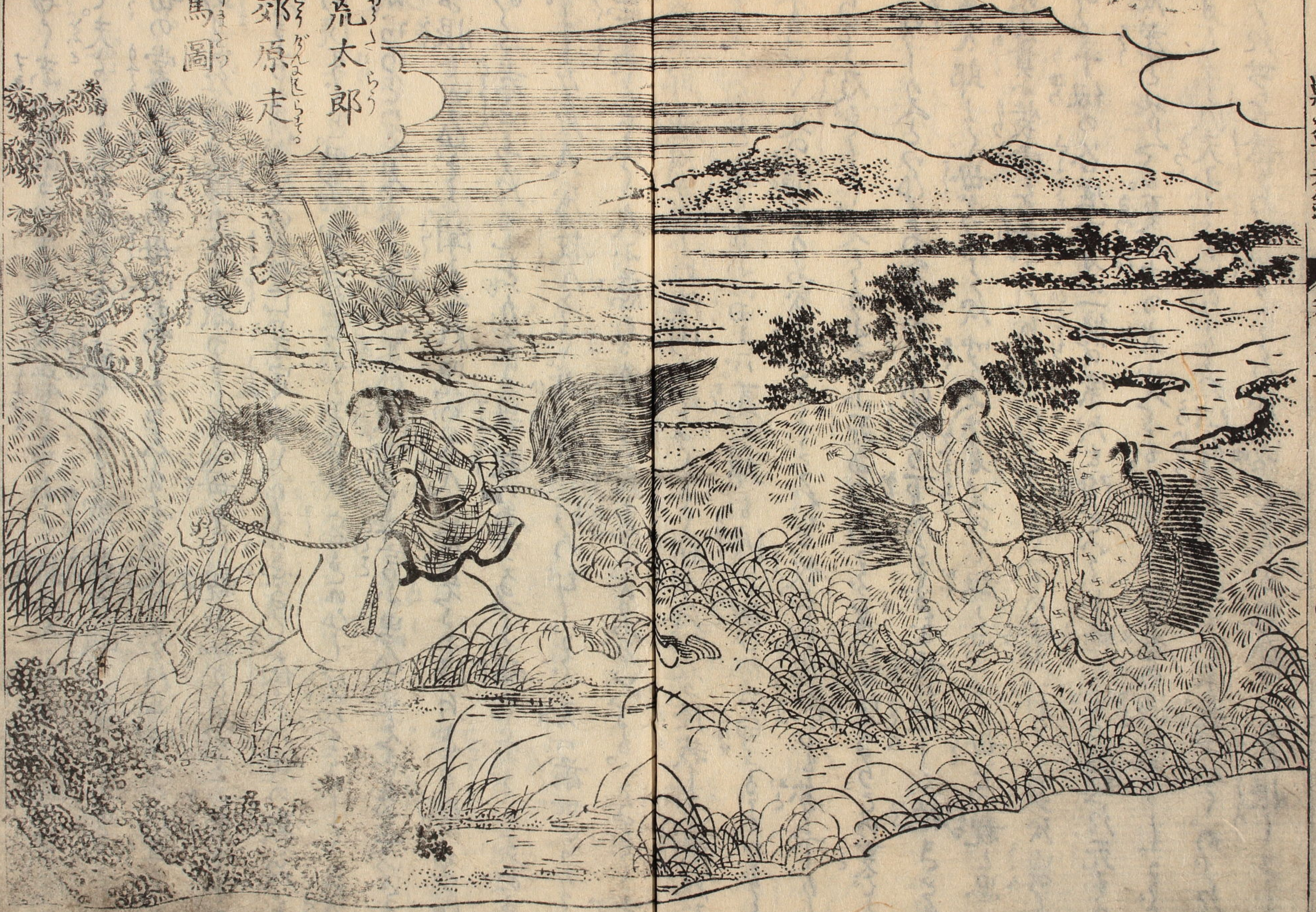
ゆる。千仞せんぜんの。谷底やち。へ。よ。小一條こいちようの。索さく。も。附つ。ど。い。く。輒いそぐ。下した。り。得え。べ。た。死し。ま。る

な。孝かう。と。地ち。り。つ。る。夏なつの。虫むしの。火ひ。ふ。入い。ち。も。お。の。ま。が。智ち。恵ゑの。浅あ。た。ど。う。く。こ。ま。り

ま。ら。く。夫をとこ。ふ。く。ま。を。ち。と。め。け。命いのち。と。あ。ん。こ。ち。ふ。羈か。され。ぬ。あ。か。た

か。た。世よ。を。捨す。る。母はは。が。こ。ろ。り。は。露つゆ。ち。と。思おもひ。中な。り。せ。ぬ。恨うら。み。こ。ま。る。

荒太郎  
郊原走  
馬圖





又世よりなりなり。この鍵ありきと天地を拜し祈請し。其  
麻索とありたり。天孝子ありきと忽ち襦袢ありたり。其  
母子ありきとび力か合を。こをこを引け。帯のありきと  
鍵ありき。父の死骸と引揚たり。見ざるためぬ熱あり。さめたり  
める面影小哀傷今さうさう。ひるん骸抱ん紅涙袖小  
つひつたれ。あふんあふん。母子ありきと死骸とつたれ。油り  
終。一糸の煙とあり。迹懇小吊ひぬ誠。千仞の底か撈りて父の  
屍と得たり。偶中の一得至孝の陰報。つらぬをいね。この  
夏近郷小つたれ。語り傳へ聞傳へ荒太郎が孝心か感あり。あ  
ありたり。宜るるるる成長のころ。左馬頭頼光朝臣。近従。碓氷  
靱負尉貞光と名告るる。個荒太郎が夏と聞えり。

第四綴

道魔法師暗小六郎二公懲と談

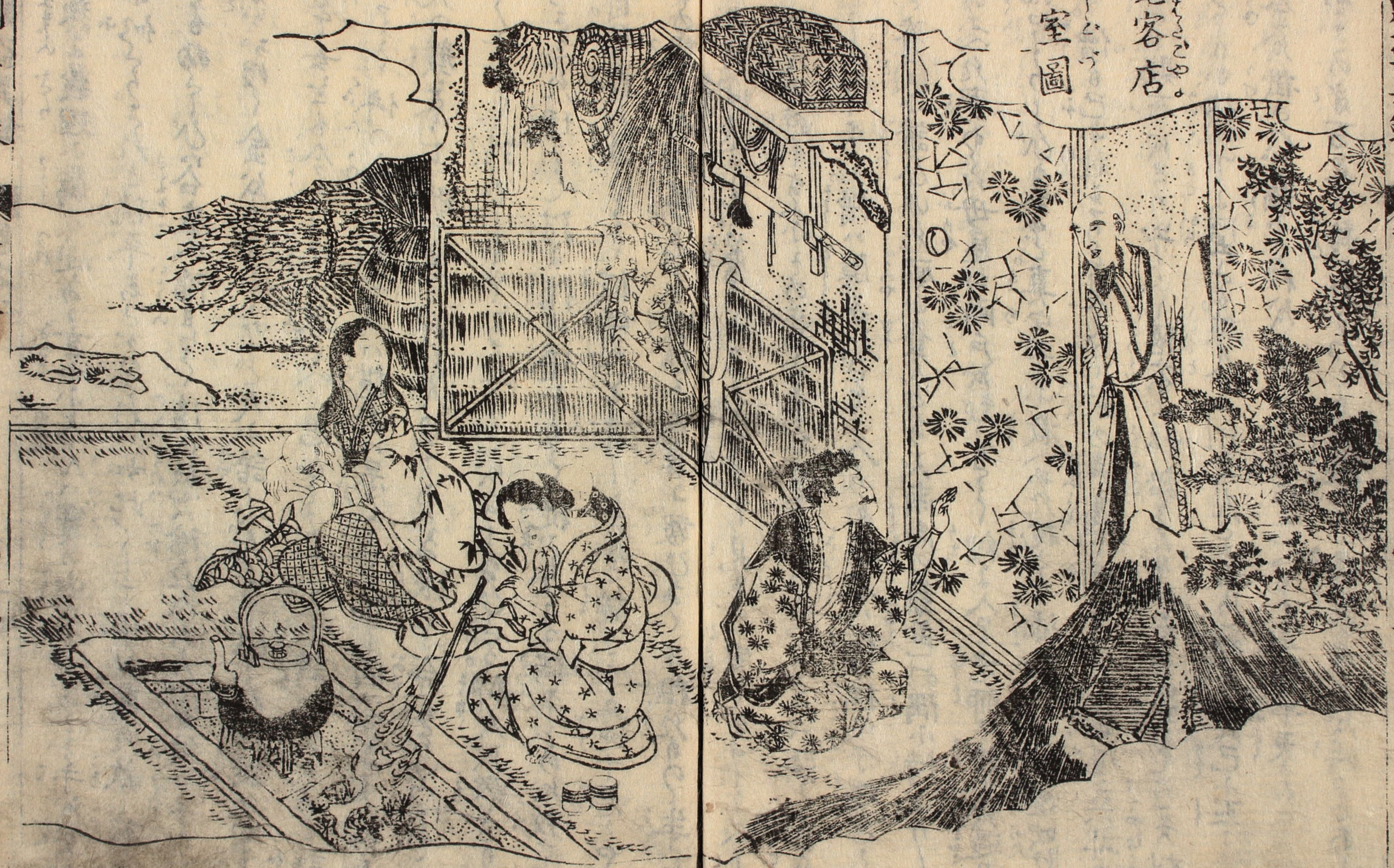
附 妙藏尼能臘麻呂と相とる事

六郎二公の父節折親子依誘ひ引く。那女川より家より。妻榎木  
おあぐれ物よりとれ。榎木これを聞くと嚮。一個の行僧の宿りと未め  
り。ふらして止あせり。鄙の住居のむ。毎室まも侍。ど  
され。法師の身ハ女子と一ッ席小即夏を厭ひる。この事のふして  
よう。んとつ。六郎二公ら點頭。この事小干。敢て公。労働とま。れ  
脊門の子亭ハ常。薪何くれの物を置とつ。四壁。全。今  
彼処か。つ。この婦人を即せ。べ。は。身。つ。あ  
ら。つ。つ。脊門の。走。れ。榎木。今。二。つ。つ。れ  
女児深雪ハ脊負の。湯。汲。節折。足。洗。夕。餐。と。め。する



道どう魔ま客きゃく店てん

讓ゆる寢ね室むろ圖ず







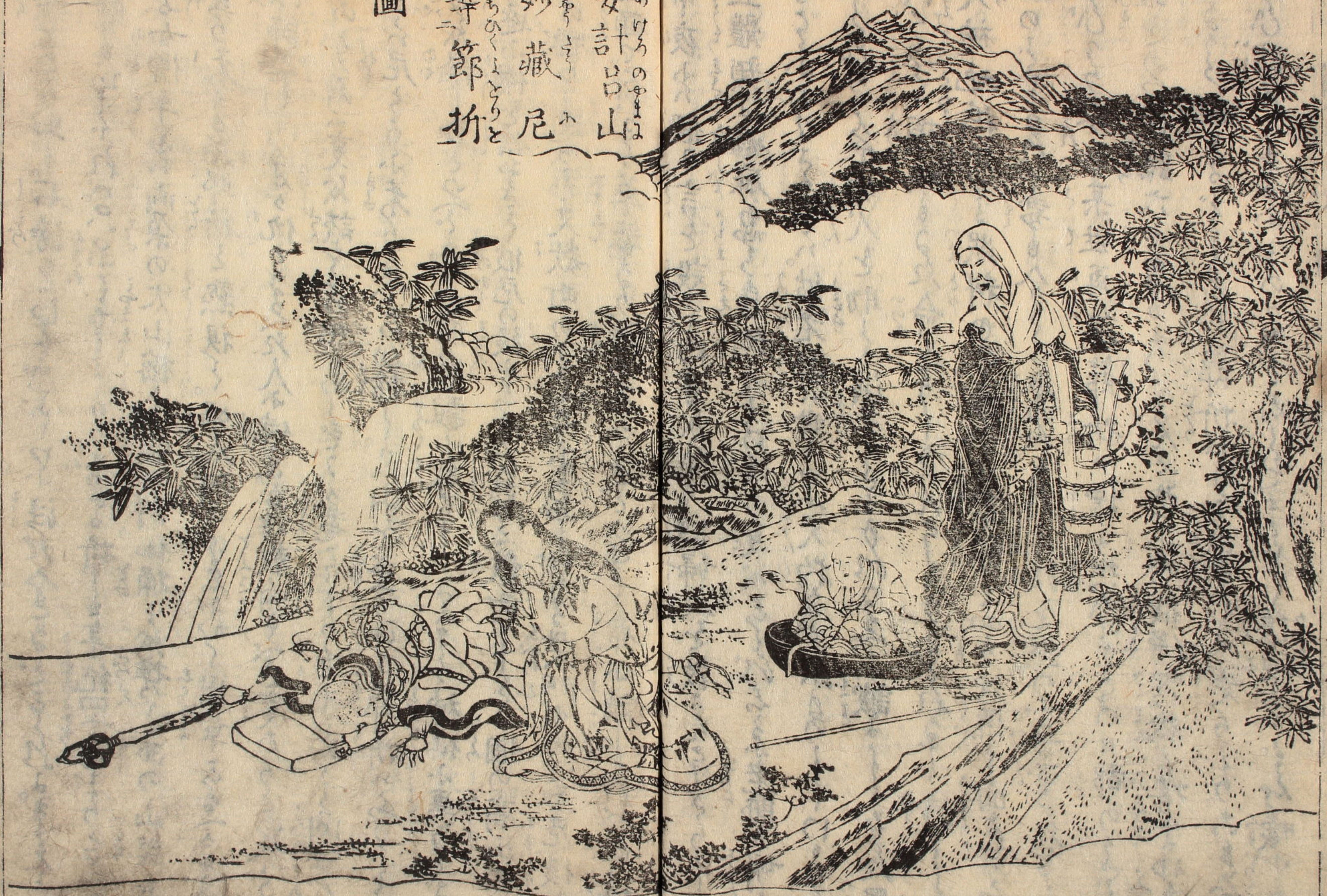


くくろりくろり。枕方不探り寄り。既小飛ひらんとまゝの時。何と云ん  
 六郎二忽ち尻居小撲地と轉卧。そのまゝ氣息絶つる。かゝる鶏明  
 曉瓜吉と云れ。節折へその教ふらる。臘丸瓜將僧訪ふ。有明  
 の月空房の裡かこ入さく。僧の端然と坐。主人の刀振りあぶ  
 昏倒とありけん。うら驚愕と退れ去んとする。僧や呼ぶめ。  
 婦人怪しむと云れ。彼己は害心あるを云く。これん瓜懲しと云。今  
 夜向明と云れ。貧道も起行べ。婦人又云らあ。赴れまよと問。  
 節折ハ僧の込驗灼然あるを又云く。いも駭然。あしと云。あしり  
 あんと思ひくれ。答く。つゝ。こゝらと都のりある。故ありて上野國  
 沼田と云ん。あちり侍るよ。あまぐれ禍小係り。導くる男。あまらぬえし  
 まの行と云。い。親れた里やも侍るべ。今その國やも下りぞく。又

都もろろ。進退窮つて。い。あ。も。ん。ま。あ。り。計。の。う。い。ふ。  
 教ふ。この声も。い。こ。ろ。ろ。に。ほ。り。げ。あり。僧も只管嘆息。こ。こ。ろ。ろ。旅  
 うれりのかるふ。一のさぬ物思ひ。と。と。と。推し。くれ。い。る。れ。ぬ  
 里小吟りん。い。け。い。是。り。都へ。り。再。び。夏。瓜。り。貧。道。も  
 幸ひ。浴。ふ。よ。れ。い。思。ひ。ま。う。向。も。つ。婦。人。瓜。推。く  
 路瓜走ん。身や干く。多むひ。ぐ。い。ん。べ。と。あ。棄。甲。ん。あ。り。ふ  
 痛く。覚。れ。路。五。六。里。が。程。貧。道。が。後。小。従。ひ。ま。り。の。道。と。か。う  
 侍る。ろ。ろ。かん。旅。人。の。つ。か。ゆ。瓜。瓜。委。わ。く。送。る。と。云。瓜。瓜  
 あり。聞。ゆ。も。節。折。も。少。り。ち。う。を。得。実。小。母。子。再。生。の。恩。の。う  
 ら。報。ひ。を。せ。べ。ん。と。主。人。今。已。小。死。と。云。瓜。瓜。追。人。の。あ。が。し。  
 この夏。い。な。せ。と。せ。あ。ある。と。附。め。僧。莞。お。う。り。笑。ひ。瓜。瓜。は。さ。り。く



安計呂山 あけりのやま  
 妙藏尼 みょうぞうに  
 導節折 みちのくまんとり  
 圖 ず





行僧播磨の道魔法師宇治拾遺道摩といふのこ彼久く夫保憲小  
 後ひく天文曆教と学び得たりといふもその志打邪しくさへ妖婦の小人  
 るん保憲との奥旨を傳へて切弱なる阿部清明あべのせいめい小授与せり是より  
 道魔ふく保憲然らるるものも清明が下よらんを蓋く逐よ都を  
 逐電ついでん久く野州二荒山の辺り住ると聞りさへ彼も尋常の者小  
 あくどく式神を使役し風を起し雨をよ但式神を使や淫酒の  
 二心慎ざればその法行は彼々の術小賢といふもその性懶惰まろかるか  
 りく逐小の身が色小愛勿心淫心いんしんが萌もれば式神權しんけんく又かゝるれ  
 今此如昏絶こんぜつのゆきをちりて彼小をひ行めその恥ちのを  
 うけあへ被ひ擬にひ心と情じやうく淫慾の念ねんとちり共ともよ夏なつかゝるる子この  
 おもひもくれば身みが誘いひ来ぬ今道魔もいづ醒さく走はるらん

とり節折せつせつの縁由えんゆうをやせりう妙藏尼めうざうにの神撒しんさ妙算めうさんと感伏かんふく且かつり  
 おび且耻かつちくひ管嘆息くわんたんそく滅小尼公めつせうにこうの慈じを蒙まうらむはほくこの身をあや  
 まんまとせあふの匿かくふし宜よろぶとくこら致忠ちしゆの側室そくしつ節折せつせつ  
 ののののの素性そせいの語ごも察さつののめ抑おさゆる功徳くどくを積つく罪障ざいじやう  
 をも滅めつ待まちて死し母子ぼしが生涯しやうがの吉凶ききうを説とくといふ妙藏尼めうざうに點頭てんとう夫  
 佛ぶつも思し瓜う棄すく無為むゐ入いるも思し瓜う報はう者しやありと説とく罪障ざいじやう消滅しょうめつと  
 ぬぐひ身の安穩あんゑんともくんの只ただ思愛しゐの羈かを断たく無為むゐの境界くわんがい小遊せうぶ  
 下げ蓋愛がい慾よくの三途さんとの源流げんりゆう六觸りくじゆくの根本こんぽんなりこれん脱離だつりせんといふが  
 その見みを奪うばふあり尼に今いまその見み瓜う相さうするん熊くま虎この形かたちなりん豺さい狼らう  
 の声こゑありん楚その子こ良ら子し越えつを生うじ良らが兄あに子し文ぶんがんくん子こ熊くま虎こ  
 此こ形かたちなりん豺さい狼らうの声こゑありん教きやうをんぐん若わ教きやうを滅めつんといふ子こ良ら



